

佐賀市の無形民俗文化財

佐賀の 雅

S A G A n o M I Y A B I





白鬚神社の田楽

- 指定日 平成12年12月27日
- 実施地区 佐賀市久保泉町川久保
- 開催日 毎年10月18・19日
- 開催場所 白鬚神社(佐賀市久保泉町大字川久保3466) MAP②
- 問合せ 白鬚神社 TEL0952-98-0164



起源

白鬚神社は6世紀半ばころ近江国(滋賀県)からこの地に移住してきた19家の人たちが勧請したと伝えられる古社で、丸祭りという先祖まつりが行われています。

田楽は平安時代に起源を持つ古い芸能ですが、いつ頃の地に伝えられたのかは明らかではありません。記録としては寛文5年(1665)に編さんされた『肥前古跡縁起』が最初で、ついで享保19年(1734)に建立された鳥居の銘に「時奏村田楽」とあります。

特徴・見所

佐賀県内で唯一の田楽で、子どもたちが演じることから「稚児田楽」とも呼ばれています。ハナカタメとスッテンテンは幼児、ササラツキは少年、カケウチは青年の役で、笛役のみ大人が担当します。拝殿前の竹囲いの中で、笛の曲に合わせて、ゆったりとしたテンポで1時間半ほど静かな舞が演じられます。



見島のカセドリ

- 指定日 平成15年2月20日
- 実施地区 佐賀市蓮池町見島
- 開催日 毎年2月第2土曜
- 開催場所 熊野神社(佐賀市蓮池町大字見島) MAP⑥
- 問合せ 佐賀市教育委員会文化振興課 TEL0952-40-7369



起源

寛永16年(1639)、鍋島直澄により蓮池藩が創設されました。毎年夏になると疫病が発生したので直澄は紀州熊野三所権現より分霊を受け、現在の地に堂宇を建立し祀りました。その後、その加護でさしもの疫病もおさまり、人びとは「これからも一層の御加護を…」との願いをこめてカセドリ行事を奉納したといわれています。

特徴・見所

カセドリは青年2名で、藁で編まれたみのと腰みのを着け、手に、長さ約1.8mの青竹の半分ほどを細かく割りさいた1本を持ちます。カセドリは、竹を打ち鳴らしながら家の玄関口や座敷にとび込み、膝をつき体を曲げて竹を激しく打ちつけながら、各家々をまわります。

県内では他に伝承されていない小正月における来訪神行事であり、見島のカセドリを含む「来訪神:仮面・仮装の神々」はユネスコ無形文化遺産に登録されています。



県指定

三重の獅子舞

■ 指定日 昭和39年5月23日
■ 実施地区 佐賀市諸富町為重

■ 開催日 毎年10月中旬
■ 開催場所 新北神社(佐賀市諸富町大字為重1073) MAP⑨
■ 問合せ 新北神社 TEL0952-47-4848

伝統
芸能

起源

獅子舞が奉納される新北神社は用明天皇(585~587)の創建で嵯峨天皇(809~823)の再建という古社です。言い伝えでは、越後の国から肥前の蓮池の地に伝わり、江戸時代に鍋島氏が川副郷三重の代官に伝授させたと伝えられています。

特徴・見所

獅子舞はドラ・鼓・笛の囃子にあわせて、めずり(獅子使い)に操られ、ひら・二段継ぎ・三段継ぎ・獅子かぶり・のみとりなどが演じられます。ひらは頭と尾に各1名がつき、獅子頭をふりながら前後に動き、二段継ぎ・三段継ぎは頭部に肩車になった2名もしくは3名が、獅子頭を高くさしあげて頭を動かす曲芸的な所作が行われます。



県指定

市川の天衝舞浮立

■ 指定日 昭和40年7月23日
■ 実施地区 佐賀市富士町市川

■ 開催日 毎年10月第3土曜日
■ 開催場所 諏訪神社(佐賀市富士町大字市川1505) MAP①
■ 問合せ 浮立の里展示館 TEL0952-58-2223

伝統
芸能

起源

浮立が奉納される諏訪神社は、明応6年(1497)に千葉氏の一族野中和泉守胤広が市川に蟄居し、その子伊賀守彦八が信州(長野県)の諏訪神社の分霊を勧請して創建したと伝えられています。しかし、浮立はいつのころより行われるようになったのか明らかではありません。なお、天保10年(1839)6月銘の鉦が残されています。

特徴・見所

浮立の出演者は、テンツクミャー(天衝舞)と呼ばれる大太鼓打ちと鉦打ち・もりゃーし打ち・銭太鼓・扇子舞・謡方・笛・パンパコなど、ほかに棒使い・にわか連中、道行の行列には高張り提灯・バレン・カサボコなどがつき、佐賀県内の天衝舞浮立のなかで、最も規模が大きいものです。「神の前」のおごそかな所作、「マクリ」のはげしい舞は圧巻で、よく古形を残しています。



市
指定

小松
の
浮立

- 指定日 昭和42年2月11日
- 実施地区 佐賀市蓮池町小松
- 開催日 毎年秋
- 開催場所 小松神社(蓮池町大字小松) MAP⑦
- 問合せ 佐賀市教育委員会文化振興課 TEL0952-40-7369

起源

平家伝説にもとづく由来が伝えられています。平清盛が福原に新都を築いたとき、何度島を築いても波のために流されたので、浮立を演じて祈願したところ、無事に完成することができました。島の名にちなみ、この浮立を築島浮立といいます。平家滅亡後、この地に落ちのびて来た平家の残党が、小松殿平重盛を追慕して、集落名を「小松」とし、浮立を小松神社に奉納したのが始まりと伝えられています。

特徴・見所

小松の浮立が他の天衝舞浮立と異なる点は、笛が用いられず、ゼイヤササラが用いられることです。笛を用いないのは、平敦盛の「青葉の笛」の故事にもとづき、これを忌むためと伝えられています。



市
指定

浮立
玄蕃
一流

- 指定日 昭和43年2月11日
- 実施地区 佐賀市神野
- 開催日 毎年11月3日
- 開催場所 掘江神社(佐賀市神野西2丁目2-10) MAP④
- 問合せ 掘江神社 TEL0952-30-6219

起源

弘治2年(1556)5月、打ち続く干ばつに掘江大明神に雨乞い祈願のために山本玄蕃が浮立を奉納したのが始まりで、その名前をとって「玄蕃一流」というようになったといわれています。玄蕃は自分の年齢47歳にちなみ、大モラシ20・小モラシ27をもって囃子方とし、カサボコはすべて女性の着物と帯を用いたとされます。

特徴・見所

天衝舞浮立の発祥の地で、佐賀平野を中心に各所に伝えられる天衝舞浮立の源とされています。テンツクには、雨乞い浮立として農業に欠かせない日(太陽)・月・星と雨を呼ぶという龍が描かれています。天衝舞人・大太鼓打ち・鉦打ち・モリヤーシ(締太鼓)・笛・謡などの一行は境内に位置し、神事にあわせて浮立が奉納されます。



市
指定

高木八幡ねじり浮立

- 指定日 平成20年11月12日
- 実施地区 佐賀市高木瀬町東高木
- 開催日 毎年11月第2日曜日
- 開催場所 高木八幡宮(佐賀市高木瀬東2丁目12-8) MAP③
- 問合せ 高木八幡宮 TEL0952-30-9044

起源

高木八幡宮は、社記によれば久安年中(1145~1151)に創設されたと伝えられています。

高木八幡宮への奉納がいつのころより行われるようになったのか明らかではありませんが、佐賀平野に広く伝承する天衝舞浮立です。

特徴・見所

ねじり浮立という呼称は、青壮年男子が掛け声とともに、上体をねじらせて鉦を打ち、モリヤーシ(締太鼓)の子どもたちも鉦打ちと同様の所作をして締太鼓を打つことから、「ねじり浮立」と呼ばれるようになりました。神前での奉納は、天衝舞・大太鼓・鉦打ち・モリヤーシ・笛・謡などからなり、鉦打ちとモリヤーシがそれぞれ2列になって、道行で神前に進み、本囃子・エイヤー・まくりが奉納されます。



市
指定

太田の浮立

- 指定日 昭和63年3月1日
- 実施地区 佐賀市諸富町太田地区
- 開催日 5年毎10月中旬
- 開催場所 太田神社(佐賀市諸富町大字大堂1632) MAP⑧
- 問合せ 諸富町公民館 TEL0952-47-4995

起源

太田神社は天文14年(1545)に太田美濃守藤原資元の創建と伝えられています。どのような経緯で太田神社に奉納されるようになったのかは明らかではありませんが、佐賀平野に広く伝承する天衝舞浮立の一種です。

特徴・見所

太田神社で5年に一度行われる秋の例祭に奉納されます。太鼓打ちはテンツクの代わりに鍬形の角がついた大型の被り物をかぶります。神社では、モラシ(締太鼓)が中央に2列に向かいあって並び、その後には鉦打ちが控えます。太鼓打ちは謡にあわせて大太鼓を打ち、謡が終わると神の前の所作を行います。神の前には太鼓打ちにより本囃子・マクイの順で行われます。マクイには、トートーヘイコ…と続く囃子歌を全員でうたい舞います。神の前が終わると花浮立を数曲舞って打ち込みの囃子にあわせ、神殿を巡って終わります。



市指定

海童神社奉納浮立

- 指定日 昭和56年12月15日
- 実施地区 佐賀市川副町南川副地区
- 開催日 毎年10月中旬
- 開催場所 海童神社(佐賀市川副町大字犬井道624)
- 問合せ 海童神社 TEL0952-45-0547

伝統芸能

起源

海童神社の秋季例祭に豊作豊漁を感謝して奉納される伝統的な浮立で、佐賀平野に広く伝承している天衝舞浮立です。起源については、寺井津の住人、玄蕃亮常利が中断していた浮立大神楽を再興したと伝えられています。

特徴・見所

奉行、笛、鉦、大太鼓、和讃(モリヤーシ)その他で構成されています。神輿巡行のときはお供として道囃子を奏しながら練り歩きます。神社や御旅所の境内では、本ばやし、つくい浮立が奉納されます。天衝舞人は浮立の主役で、神前で神を拝み、囃子に合わせて舞い、太鼓を打ちます。つくい浮立は娯楽性の高いもので、なかでも「すもとい(相撲取り)浮立」といって、相撲甚句に合わせ、浮立の打子の「ドスコイドスコイ」という掛け声と踊りが名物です。



市指定

松枝神社奉納浮立

- 指定日 昭和56年12月15日
- 実施地区 佐賀市川副町大詫間地区
- 開催日 毎年10月第2日曜日頃
- 開催場所 松枝神社(佐賀市川副町大詫間211)
- 問合せ 大詫間公民館 TEL0952-45-4480

伝統芸能

起源

筑後川河口に筑後川とその支流早津江川に挟まれた大三角州があり、北半は福岡県大川市大野島、南半が大詫間です。大詫間の松枝神社の秋の例祭に奉納される天衝舞浮立で、発祥の時期は明らかではありませんが、神社創設の元和9年(1623)ごろより、水に苦労した干拓地で、八大龍王に浮立を奉納して雨を祈願したのではないのでしょうか。

特徴・見所

当日は早朝4時ごろ、高張り提灯を先頭に神社境内に入り、1時間ほど浮立が行われます。浮立は18歳から26歳までの青年男子が中心で、奉行・笛・小太鼓・鉦・大太鼓で構成されています。道行きでは、道囃子をはやし、神社では本浮立・つくり浮立が奉納されます。



市指定

快万浮立

- 指定日 平成19年9月27日
- 実施地区 佐賀市久保田町徳万
- 開催日 毎年10月第3日曜日
- 開催場所 香椎神社(佐賀市久保田町大字徳万1556) MAP⑤
- 問合せ 香椎神社 TEL0952-68-2655

伝統
芸能

起源

香椎神社は、安元3年(1177)ごろ、この地を治めていた窪田因幡守藤原利常が、久保田村矢櫃の森に勧請し、のちに現在地へ社地替えになったと伝えられています。香椎神社の秋季例祭は、通称「おかせんさんまつり」といいます。神輿を中心に御旅所までの御神幸に浮立の一行がお供をします。浮立の起源は不明ですが、佐賀平野に多く伝わっている天衝舞系の浮立です。長く途絶えていましたが、昭和60年代に地区有志により復活をしました。



特徴・見所

4年に一度の輪番で行われます。テンツクはいつのころか無くなり、現在は大太鼓、鉦、笛の囃子で、子どもたちの銭太鼓とモリヤーシ(締太鼓)が舞うという形になっています。曲目は道行き、鳥居がかり、神の前、四つまくり、三つまくり、でやあーがあります。



市指定

東与賀銭太鼓

- 指定日 平成19年9月26日
- 実施地区 佐賀市東与賀町
- 開催日 地区イベント等に出演
- 開催場所 各催事場 ※練習場所 MAP⑩
- 問合せ 東与賀公民館 TEL0952-45-0375

伝統
芸能

起源

明治後期に、島根県出雲地方から東与賀町の今町や船津地区に伝えられたといわれています。まつりや祝いの席で披露されていましたが、戦後次第に衰退し中絶していました。平成3年3月に町内の有志によって「東与賀銭太鼓を育てる会」が発足し、現在は町内外での特別な行事の中で広く披露されています。



特徴・見所

銭太鼓は、30センチメートルほどの竹筒の両端に銭(5円玉)を針金に通して数個取り付け、振ると中で銭が触れ合ってでる音を利用したリズム楽器です。民謡などに合わせ、両手に持った銭太鼓がぐるぐると空を舞ったり、床に打ちつけられたりして、銭太鼓特有の澄んだ音がです。





佐賀市の無形民俗文化財

まつりの季節になると人びとは神前に豊かな総りを感じし無病息災を祈り、笛や太鼓・鉦の音になぜか心が浮き立ちます。佐賀市内にはまつりにとれない田楽や浮立・獅子舞など多種多様な伝統芸能が数多くあり、また貴重な行事も伝えられています。

田を囃す芸を母体として生まれた田楽は九州で唯一のものであり、豊富な内容を持つ浮立は、風流と同義で雅やかという意味があります。また中国大陸から渡来した獅子舞は全国に伝えられ、佐賀市においても独自の芸能になりました。

新年を迎えると、災いを祓う、カセドリというたいへん珍しい行事も行われます。

今日まで長い間伝承されてきた伝統芸能や行事には、それらを培ってきた風土や歴史が取り入れられており、土地独特のまさに無形の民俗文化財なのです。